

産学交流シンポジウム

産学交流シンポジウム — 関西 —

第一部：先輩として伝えたい

第二部：21世紀のデザイン教育

日時：2000年1月22日（土曜日）13:00～17:00

場所：大阪科学繊維会館 2・3号室

企画：人材育成委員会／教育研究委員会共同企画

◎相談役講師

1.メーカー関係：

山内誠氏（東レ（株）） 寺井洋介氏（ユニチカ（株））
鈴木洋行氏（倉敷紡績（株））

2.商社・アパレル関係：

白井繁一氏（滝定（株）） 石田仁志氏（（株）ワールド）
中条浩光氏（（株）ミズワン） 飯田直子氏（内外繊維用品（株））

3.寝装・インテリア関係：

近沢晴雄氏（住江織物（株）） 河野博之氏（敷島紡績（株））
坂東正氏（大和紡績（株））

4.アトリエ・フリーランス

山口道夫氏（アトリエ・ヤマグチ）
松井武雄氏（（株）デザインプラザマックス）
平岡美子氏（HIRAOKA PLANNING ROOM）
将積厚子氏 金清幸男氏（（株）デッサン・ジュン）

◎参加大学・短大・専門学校

大阪地区：大阪芸術大学／大阪文化服装学園

京都地区：京都市立芸術大学／成安造形短大／川島テキスタイルスクール

神戸地区：神戸芸術工科大学／夙川学院短大

金沢、名古屋：金沢美術工芸大学／名古屋産大

◎参加人員

相談役講師：15名 参加校：7校（教員：8名） 参加学生数：35名



全体オリエンテーション 風景

■【第一部 TDAが主催する学生の就職相談】13:00～15:30

—先輩として伝えたい—

デザイン業界の現状を詳しくお伝えします

進行：鈴木洋行／金清幸男

○全体オリエンテーション

産学交流シンポジウムの趣旨説明の後、デザイナーの先輩である本日の相談役講師諸氏に、一人ずつ簡単な自己紹介と短いコメントをお願いした。

○グループわけ、テキスタイルデザイナーの仕事

1.メーカー（素材をデザインする） 2.商社・アパレル（製品をデザインする）
3.寝装・インテリア（生活をデザインする） 4.アトリエ（デザインを制作する）
4個の「島」を設置し相談役講師諸氏を中心に学生達が円座になり

「学校で学んだことを何処で活かせるか」「商品をデザインすること」「企業内組織と企画・デザインとは」「自営業としてのデザイナーの仕事」等々について個々の学生の質問に直接答えるという形式を取った。参加学生は大学生、短大生、専門学校生の一回生から四回生まで立場と置かれた状況の異なる学生達ではあるが、デザイナーとしての仕事に大きな期待と関心を持つ彼等は大変熱心にまた積極的に懇談会に入っていた。

参加学生は一様に真剣そのもの、講師の話聞き漏らすまいと目を輝かせ、ある者はノートを取り質問も活発にした。またある学生は授業の課題作品を持参し、この時とばかり緊張しながらも一生懸命作品のプレゼンテーションをし、講師の講評を求めている学生等々、会場は彼等の熱

気で熱くなり、寒い一日であったが、ドアを開けて空気の入換えをしなければならないほどであった。

私は日頃大学で学生達に接し、学生の思考行動パターンに熟知していると思っていたが、この会場に参加した彼等は、いつもの彼等と異なるキラキラ輝く目と上気した頬の素直な大変熱心な学生達であったことがとても印象深かった。グループ懇談会に予定していた90分が瞬く間に過ぎたが、盛り上がり熱気に押され、終了時間を30分延長し、次回を約束し終りとした。



午前：商社・アパレル関係のグループ
奥：メーカー関係グループ



会場風景



学生の作品のプレゼンテーション



アトリエ・フリーランスのグループ

■【第二部 —21世紀のデザイン教育—】15:40～17:00

産学共同で出来ること

○参加者

【第一部相談役講師】山内誠氏／寺井洋介氏／鈴木洋行氏／白井繁一氏／石田仁志氏／中条浩光氏／飯田直子氏／近沢晴雄氏／河野博之氏／坂東正氏／山口道夫氏／松井武雄氏／平岡美子氏／将積厚子氏／金清幸男氏

【学校関係者】

梅田幸男氏（大阪芸術大学）氏滝口洋子氏（京都市立芸術大学）大手裕子氏（成安造形短大）石崎朝子氏（川島テキスタイルスクール）橋橋子氏（夙川学院短大）川本敦久氏（金沢美術工芸大学）加藤国夫氏（名古屋産大）

【進行係】

松本美保子（神戸芸術工科大学）

終了時間が刻々と迫ってくる中で、まだ学生達の熱気の余韻が残っている会場を、今度は部屋いっぱいのおおきな円卓にテーブルと椅子をセッティングして、参加者が自分の名札を持って席に着き、第二部がスタートした。

話題の導入は、第一部の懇談会についての意見、反省、今後への提案から始まる。

講師諸氏からは学生達の相談はマトを絞れていないとか、目標を何処に持っていけばよいのか計りかねている等の報告があった。今産業界では、新卒をゆっくり時間をかけて育てることが出来にくい状況になっている等、企業の苦慮している側面の話もあった。

一方、学校の教員からは、各学校の特徴、状況、事情等の説明がなされたが、今回のこの企画に対しては大変有意義だという意見が多かった。このような企画であるならば、次の機会にはもっと積極的に学生に参加を勧めたいという教員の方々が大半であった。問題は開催時期について、3回生を対象にするのか4回生を対象にするのか、各学校の行事とのからみ等、検討事項も課題として沢山残った。

企画としては第二部を1「企業が望む大学教育とは」、2「大学が企業に望むこと」、3「企業と大学と一緒に出来ることを模索する」等の議題を活発に討議する場として用意していたのであるが、この件に関しては、まったく話題に触れることも出来ないうちに終了時間となり、総て次回に譲ることとなってしまい誠に残念である。